

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年4月21日

【評価実施概要】

事業所番号	2970500795
法人名	有限会社 夢野家
事業所名	グループホーム 夢野家Ⅱ
所在地	〒634-0835 奈良県橿原市東坊城町197番地3 (電話) 0744-28-2929

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年4月3日	評価確定日	平成20年5月7日

【情報提供票より】(20年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 11月 3日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 8 人
職員数	10 人 常勤 5人, 非常勤 5 人, 常勤換算 6.1 人

(2) 建物概要

建物構造	木造一部鉄骨		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		2,000円	

(4) 利用者の概要(3月 1日現在)

利用者人数	6 名	男性	0 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.2 歳	最低	74 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	みなみクリニック、中井記念病院、吉田歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

夢野家Ⅱは、旧家から資材を解体移築した民家を借り受けて運営しています。スーパーのすぐ隣でありながら400坪という敷地と私道に囲まれ、ミカン、桜、菜園、花壇、ウッドデッキと恵まれた立地と環境が特徴です。利用者は、日中リビングに集まり好きな場所でくつろぎ、散歩や買い物、外食や映画など希望に応じて多くの外出の機会が持てるよう支援しています。またホーム内では月に2度手芸家を迎えて、毎回趣向を凝らした作品作りが行われています。少し古くなったカーテンも利用者の手作りで補修され、新しくよみがえるなど、完成度の高い作品として役立っています。食事も頂き物の野菜や菜園のものが献立に添えられ、職員は利用者と共に毎日の献立を考え、支え協力し合いながら作っています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題である個人記録の整備や運営推進会議の定期的な開催について年間計画を立てて行うようにしています。看取りに対する職員の勉強会を行い、市の看取り介護のガイドラインを入手し、方針を整備しながら資料を作成中です。また運営推進会議に防災時の協力要請をすることは懸案となっています。消防団に運営推進会議への出席を要請する方向です。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	主には常勤の職員で話し合わせ、管理者が意見を反映してまとめました。評価の意義は全職員が理解しサービスの改善に努めています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は4か月に1度利用者、家族、民生委員、市職員、市会議員、区長、職員等が参加して行なわれています。討議内容は、ホームの現状報告や今回の外部評価に向けて昨年度の評価結果などをテーマにしています。また、地域の消防団の参加を要請する意向です。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年に1度家族と共にミニ旅行が行われ、かわりを深めることで話しやすい状況を作っています。よく来訪のある家族には面談で、遠方の方は電話で声を聞く機会を積極的に設けていますが不定期となっています。利用者本位は家族本位であると認識し、管理者は家族の声の代弁者であるとの思いから家族の声の収集に努めています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に入り夏祭りや盆踊りに参加しています。地域に出かける時には車いすへの援助などを気軽にお願ひしています。また外食の機会には、店にホームのことを伝え、理解してもらうように努めています。庭の草むしりなどをボランティアに手伝ってもらっています。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「老いる自由」と、「そのままのあなたで良い」を理念とし、加齢に伴う不自由を受け入れつつ、職員が手助けすることで思いを行動に繋げています。管理者や職員が地域出身ということもあり、地域に根ざした支援がなされています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホーム内に掲示しており、朝夕のミーティングや職員会議の際、管理者は職員の顔を合わせて説明し、理念の共有に努めています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入っており、市民よりも配布されています。夏祭りや校区の区民祭に参加するなど地域とのかかわりへの努力がなされています。有償ボランティアですが、地域の方に手芸の講師を依頼し、高度な作品をみんなで作っています。また出かけた先で気軽に車椅子の援助をお願いするなど、積極的な働きかけにより地域の方々の応援を得ています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の評価結果を受けて、利用者の記録を個別記録に変えるなど改善の努力がなされています。今回の評価にあたっては、ミーティングで職員全員が話し合い、管理者が意見を集約し作成しています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は4ヶ月に1回、利用者、家族、民生委員、市職員、市会議員、区長、職員等が参加して行なわれています。家族にも声を掛け順番に参加を促しています。ホームの状況報告や取り組み、外部評価の意義や結果報告についても話し合わせ、毎回活発な意見が交わされています。今後は会議日程を2ヶ月に1回に変更する予定です。		

グループホーム夢野家Ⅱ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市へは度々相談や連絡を入れ、連携を図っています。また市職員から研修の情報などを得ています。今年度からは介護相談員を受け入れるなど、さらなる連携強化に努めています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族はほぼ毎月のように来訪され、その際預かり金の収支を報告し、領収書も渡されています。掲示している写真で普段の利用者の様子や行事、生活などを見てもらえるよう工夫をしています。来れない家族には電話やファックスでの報告となっています。	○	家族の来訪が多く利用者の様子が直接報告されていますが、電話やファックスでの連絡の方もおられます。掲示されている行事や日常の様子が写真にとられており、何らかの形でこれらの状況が、なかなか来訪できない家族も含め全員に伝えられれば更に信頼関係に繋がることと期待します。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時や電話等で意見を聞く機会を多く設けたり、年に1度家族も参加するミニ旅行に行っています。利用者本位は家族本位であると認識し、管理者は家族の声の代弁者であるとの思いから、家族の声の収集に努めています。また運営推進委員会に家族が出席し、意見が反映される機会を設けています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は少なく、話し合いを多く持つことで管理者と職員は気軽に意見を言える関係を築いています。新しい職員は日勤をしばらく続け馴染みの関わりを作った後、現任者と共に夜勤をするなど配慮がなされています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に2回、実践者研修には重点的に参加するなど、職員全員が何らかの研修に交替で参加しています。また月に一度のミーティングで伝達研修を行い全職員での共有に努めています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームとの交流研修が毎年開催され、サービスの振り返りと質の向上に役立てています。さらに管理者が中心となり、市内の5ホームに呼びかけ相互見学や情報交換を行なう等、交流の準備が進められています。		

グループホーム夢野家Ⅱ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学に来られた際、利用者とお茶やおやつと一緒にしたり、時にはレクリエーションに誘ったりしています。また家族は即入居を望まれる場合が多いですが、馴染むまでを体験入居と考え対応しています。帰宅願望の強い利用者には対応方法を全員で話し合い、否定せず共有することで、徐々に落ち着いて来られています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は風習や祝い事などの知識が多く、また、言葉使いや礼儀についても厳しい方がおられ、叱られる事もあります。職員にとって大いに学びの場となっており、教えられる事が多く利用者への尊敬に繋がっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を改良しアセスメントを行い情報を収集しています。利用者との会話や家族から意向、以前の生活を聞き、本人の思いを汲み取っています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作るにあたっては、ミーティングで計画作成担当者を中心に職員が話し合い、家族・利用者の意向を反映させて作成しています。また介護計画に添ったケアを行なう為、毎日の生活記録やバイタルサインを記載しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者全員について、毎月カンファレンスを行い介護計画に反映しています。3か月毎に見直し、家族にも伝え意向や意見を確認し、6か月ごとに評価の書き換えに繋がっています。利用者に変化がある時はその都度見直されています。		

グループホーム夢野家Ⅱ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関への受診に職員が同行し、家族に報告連絡を取っています。また、眼鏡作りに同行するなど利用者の意向にそった支援がなされています。以前は同行していた理美容も、現在は2ヶ月ごとに出張で来てもらい希望者は利用しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望で依頼した近隣の協力医・歯科医への受診には職員が付き添っています。また歯科医院は半年に一度の往診があり、ホームで受診ができるようになっています。受診結果については、その都度家族に報告しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の家族には入居時に終末期に対する意向を聞き、実際に直面した時には再度確認しています。職員には採用時看取りについても話をしています。今後は利用者状況に応じて訪問看護や訪問リハビリ等の利用などが検討されています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声かけや言葉遣いには充分気をつけるようにしています。個人の尊厳については、ミーティングなどで事あるごとに確認しています。個人情報を利用者の行き来のない事務所に保管し、金銭記録などについては扉のある棚に収納されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	早起きの利用者は早朝から廊下の掃除をし、利用者の声かけで近隣のスーパーへの買い物や神社に散歩をするなど、理念を尊重した自由でのびやかな時間が過ぎていきます。利用者は居室にこもるのではなく自然にリビングに集まり、それぞれ好きな場所で寛がれています。		

グループホーム夢野家Ⅱ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事当番の職員が、食材を見て利用者の希望や意見を聞き一緒にメニューを決め、手作りしています。下ごしらえ、片付けも手伝ってもらいます。時には菜園から調達したものや頂き物の食材がメニューに加わり野菜中心の食事が提供されています。梅干、紫蘇ジュース、味噌が利用者の手を借り作られています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日3時半から5時に入浴時間の設定はされていますが、夏場は利用者の希望にそいシャワー浴を多くする等の支援をしています。入浴拒否をされる方も話し合いで2日に1度くらいは入浴されるよう心がけています。またゆず湯・菖蒲湯など季節感を感じさせる工夫もなされています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎朝の廊下の掃除、食事の手伝いや食器拭き、洗濯たみ、家事のかわりにクロスワードや漢字あてをするなど、好みと知識で力を発揮しています。また、半数くらいの利用者が競って百人一首を楽しむこともあります。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	隣にスーパーがあり買い物だけでなく、そこで食事したりもします。10分くらいのところにある八幡さんへの散歩等が日常的に行われています。また、花を訪ねてのドライブ、映画鑑賞など希望にそって月に数回積極的に出かけています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関の鍵はかけられていません。センサーチャイムで出入りの把握はできますが、時間が合えば利用者の思いにそって職員と一緒に出かけています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	市役所の防災マップに記載され、避難場所や方法をミーティングで職員間で話し合う機会を設けています。利用者の混乱を招くなどの理由で今のところ避難訓練は行っていません。地域の消防訓練には管理者も出席しており、地域の消防団に働きかける意向です。	○	今後、ホームで避難訓練を実施される事が期待されます。

グループホーム夢野家Ⅱ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状況に合わせて支援の方法を考え取り組んでいます。必要な利用者には排尿で観察し、水分摂取量もバイタルチェック表に記載しています。こぶ茶やヨーグルトなどで補給し、嗜好によっては代替え食を考え提供しています。栄養バランスを検討する機会を職員で設けており、管理者がカロリー計算をしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	純日本式の民家で家具や掲示物も違和感なく置かれ、季節感が出るように配慮されています。またウッドデッキを作り、廊下をサンルームに改築し、利用者が手作りした作品や手を加えたカーテンが飾られ、生活がしやすい工夫がされています。また広い庭には季節の花や野菜が植えられ、私道にも花をたくさん植え、道行く人にも心地よい空間となっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室が広く、使い慣れた筆筒や本棚・机などを置かれています。遠方の家族と一緒に寝泊まりされる場合もあり、ホームでは蒲団が用意されています。また認知度が重くなり、職員の目が届くりビングに近い居室に家族の了解のもと移動を試みられるなど、利用者の状況に合わせた取り組みがなされています。		